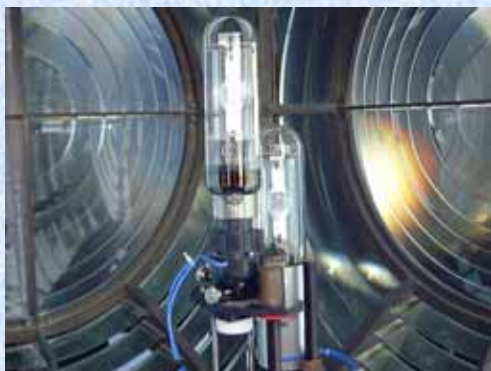


【1 佐多岬灯台】



佐多岬灯台(海拔59m 灯台の地上高13m)



使用電球(メタルハライドランプ150w)

【2 灯台見回り船ずいうん】



わが国における灯台の建設は、江戸末期の開国と同時期にはじまり、慶応2年(1866年)に英、仏、米、蘭4カ国との条約において、全国に十ヶ所の灯台を設置することとなり、佐多岬灯台もそのひとつであった。

佐多岬灯台は、中国大陸から東シナ海を渡り、横浜まで太平洋を北上する船の重要な目標として設けられたものであり、また最初に交代制「滞在」勤務を採用した。

設置当時の灯台は昭和20年に空襲を受け全壊した。その後、屋根の上に、残ったレンズを取り付け点灯していたが、昭和25年にコンクリート製八角形の灯台が再建された。

灯台の沿革

- 明治3年9月27日 着工
- 明治4年10月18日 初点
鑄造六角形白色
詰員3人
気象観測も同時期に開始
- 昭和20年3月18日 消灯
米艦船の攻撃により灯台全壊
- 昭和25年6月9日 再点灯
コンクリート造八角形に再建
- 昭和27年1月23日 電化
- 昭和55年4月24日 佐多岬無線方位信号所(レーマーカービーコン局)業務開始
- 昭和60年2月21日 無人化
滞在管理から巡回管理へ変更。翌3月1日無線監視開始
- 平成17年4月1日 ライブカメラ運用開始
インターネットで灯台と付近海上模様の情報提供開始

ずいうん要目

- 牛久保健一船長(59)ほか乗組員12名
- 総トン数 168トン
- 全長 46m
- 速力 12ノット
- 航続距離 1,440海里
- 就役 昭和58年7月27日

